

### 134. 加齢に伴う股関節大腰筋の 萎縮度の検討

-大洋村健康づくりプロジェクト(2)-

○久野謙也(筑波大TAPA)、金 俊東、塩崎知美、  
佐々木心哉、狩野 豊(筑波大大学院)、  
石津政雄(大洋村村長)、岡田守彦、勝田 茂  
(筑波大体育科学系)

#### 「目的」

股関節にある大腰筋は、脚を引き上げるときに主動的に働く筋で、歩行等において重要な役割を果たす。しかしながら、これまで加齢とこの筋の量的な関係について検討した研究は一つもみられない。そこで本研究では、20代から80代までの男女94名を対象に、MRIによる大腰筋横断面積と加齢との関係を検討した。

#### 「方法」

被検者は男女別に20~34歳群から10歳刻みにグループ分けされた。最も高齢群は75~84歳群である。測定部位は、腹部腸骨稜の位置を確認し、その部位のMRI横断画像を得た。測定に要した時間は、1名約10分であった。得られた画像をMRIフィルムに焼き付けた後、大腰筋を同定し、その横断面積を求めた。

#### 「結果と考察」

- 1) 男女とも50歳代から20歳代に比べて統計的に有意に大腰筋横断面積の低下を示した。
- 2) 20歳代からの低下率でみた場合、著しい性差は認められなかった。
- 3) これまでに報告されている加齢による大腿部の筋群の低下率(20歳代と60~70歳代を比較)に比べて、大腰筋の低下率は約10%ほど高い値を示した。

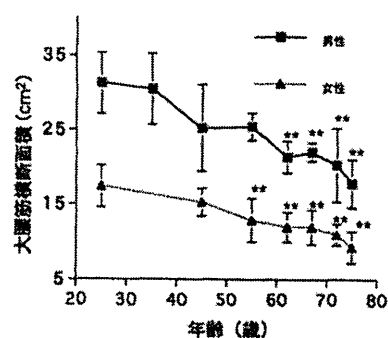


図 加齢にともなう大腰筋横断面積の変化

\*\* vs 20歳代,  $p < 0.05$

加齢, 大腰筋, 性差